

# 小児の遊びにおける成長発達の検討

草野美根子 谷川美保子

**要 旨** 遊び (PLAY) は子供にとって重要な仕事であり、生活である。また、遊びが運動・精神・身体の発達や性格形成に果たす役割は、重要であり、子供の成長や発達に大きく影響している。

小児の成長発達段階を遊びの面から検討することもまた大切であると考え、今回3歳児と5歳児の遊びを観察する機会を得たので、検討した。

長大医短紀要2: 199-203, 1988

**Key words:** 小児の遊び, 発達, 評価

## 1. はじめに

遊び (PLAY) は子供にとって重要な仕事であり、生活である。しかしそれ以上に、遊びが運動・精神・身体の発達や性格形成に果たす役割は、重要であることがよく知られている<sup>1</sup>。遊びが子供の成長・発達に大きく影響し、又これらが遊びの種類や発達にも現われる。

遊びの種類や発達については、成長・発達に個人差があるように、知能や性別による個人差があり、更に、地域差・文化差などの要因が影響する。

遊びを通しての子供の成長・発達を評価する研究はまだ少なく、子供の成長・発達の評価は、身長、体重、骨年齢、知能テストなどに依存しているのが現状である。

今回我々は3歳児と5歳児の遊びを観察する機会を得たので、遊びの種類や発達の段階(レベル)を検討してみた。その結果、遊び

の種類、持続時間、一人遊び、集団遊びについて3歳児と5歳児の遊びに発達の差を認めたと報告する。

## 2. 対象及び方法

**対象:** 長崎市内のS保育園で3歳児と5歳児各4名

**方法:** 玩具や指導などによる遊びの形態の影響を避けるため、園庭での自由遊びの時間を利用し、40から60分間のタイムスタディをとる。検者は、園庭を見渡せる場所から対象児を確認出来る目印を児に見えぬようにつけ観察する。

## 3. 結 果

得られた結果を遊びの経過や、種類などに分類した。(表1)

牛島義友による分類<sup>2</sup>に基づき表2の結果を得た。

表1 遊びの経過と種類

分		→ 10	→ 20	→ 30	→ 40	→ 50	→						
5 才 児	A 男	ジャンケン遊び											
	B 男	ジャンケン遊び		鉄柱登り・スベリ台遊び									
	C 女	平均台スベリ台遊び	ジャンケン遊び		ジャンケン	追走	ス						
	D 女	ジャンケン・スベリ台	ジャンケン遊び		平均台								
3 才 児	A 男	ス	土	ままごと	土	枝	土	ウロウロ	土	話	丸虫探し	追 い 走 る	
	B 男	ブランコ		絵	さ か る	砂	木	丸虫探し			ミミズ	絵	カ メ ン ラ イ ダ ー
	C 女	はしご登りとスベリ台		水くみ遊び				はしご	ジ グ ザ ル	はしご			
	D 女	はしご スベリ台	水	鉄	ブ ラ ン コ	丸虫探し				ジ グ ザ ル	砂	鉄	土

ス：スベリ台，土：土いじり，水：水あそび，砂：砂あそび，絵：絵書き，鉄：鉄棒，平：平均台

#### 4. 考 察

##### ①遊びの経過について

遊びの経過による分類で牛島らは、3歳児の場合例数103例で、未分化型：累積型：連続型：文節型：統一型は、7：49：9：21：15、5歳児74例で1：27：1：38：32という結果を得ている。すなわち、未分化型は原始的遊戯活動類型で2～3分おきに異なる行動を示し、まとまりのないものと言える。累積型は断片的遊戯活動がモザイク型にあつまっただもので、10分間位持続する。連続型は同種類の遊びが1時間位連続しているが、雑然と一つの型をとっている。文節型はまとまった2～3の遊戯活動が1時間に混合して行なわれている。また、統一型は文節型の遊びが更に長く1時間位持続する。以上のように、遊びの経過形式による分類は5つに区分される。

3歳児のAは未分化、連続混合の累積遊び、Bは連続が混じた累積遊び、Cは累積が加わった連続遊びであった。5歳児Aは統一型、BCDは文節型に混じた連続遊びに分類できた。このことから3歳児では累積・連続遊びが、5歳児では文節型・統一型遊びが主となっていることがわかり、そこに発達の経過を確認することができた。遊びを通して

自由に創造的な思考を働かせる機会に恵まれたために成長発達を助長したと考えられる。

##### ②遊びの型による分類について

田中ら<sup>8</sup>の行動様式による分類では、何もしていない行動、つまりひなたぼっこや動こうとしないことなど、この傍観的行動は他の子供の動作やけんかをぼんやりとみていること。時には口を出したり、応援したりする。一人遊びはたったひとりで遊ぶこと。平行的行動は勝手に並んでいるが他の子供と同じように玩具で遊んでいる。このようなわがまま勝手な行動には一定の目的がなく衝動的にふるまう。こび甘える行動は他の子供の言う通りになる。他の子供の真似ばかりする。

二人遊びは追いかけて、積木、滑り台などを一緒に楽しむことであり、連合遊びは三人以上のグループで流動性に富み、遊びの規則がみられるが一定でない。協同遊びは遊びの規則が一定し、リーダーも一定する場合もある。これらは、田中らの調査によると、幼稚園児の遊びは連合遊びにとどまり、指導がないと協同遊びに発達しないと述べているが、今回の遊びの様相の観察では、連合遊びを混じえているとはいえ協同遊びまで観察できた。他の研究においても、幼児期は一人遊びや平行遊びが多く、協同遊びは小学校の低学年で

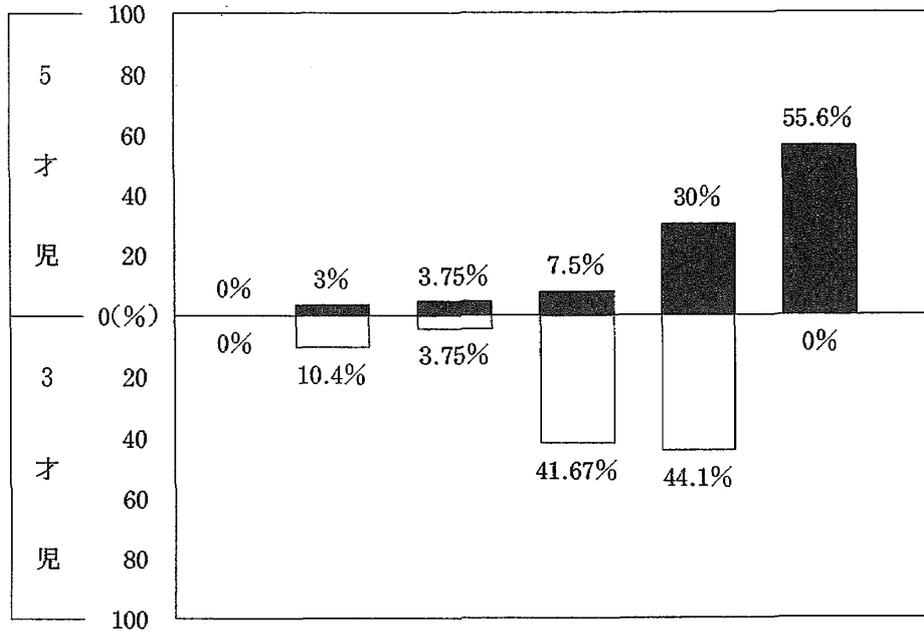
小児の遊びにおける成長発達の検討

表2 遊びの型からの分類

5才児\時間経過		10 (分)	20	30	40	50	60
A	無 独 見 平 連 協	[Timeline for 5-year-old A: 0-10 min: 10 blocks of '平'; 10-20 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 20-30 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 30-40 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 40-50 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 50-60 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平']					
B	無 独 見 平 連 協	[Timeline for 5-year-old B: 0-10 min: 10 blocks of '平'; 10-20 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 20-30 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 30-40 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 40-50 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 50-60 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平']					
C	無 独 見 平 連 協	[Timeline for 5-year-old C: 0-10 min: 10 blocks of '平'; 10-20 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 20-30 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 30-40 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 40-50 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 50-60 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平']					
D	無 独 見 平 連 協	[Timeline for 5-year-old D: 0-10 min: 10 blocks of '平'; 10-20 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 20-30 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 30-40 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 40-50 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 50-60 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平']					
3才児\時間経過		10 (分)	20	30	40	50	60
A	無 独 見 平 連 協	[Timeline for 3-year-old A: 0-10 min: 10 blocks of '平'; 10-20 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 20-30 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 30-40 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 40-50 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 50-60 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平']					
B	無 独 見 平 連 協	[Timeline for 3-year-old B: 0-10 min: 10 blocks of '平'; 10-20 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 20-30 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 30-40 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 40-50 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 50-60 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平']					
C	無 独 見 平 連 協	[Timeline for 3-year-old C: 0-10 min: 10 blocks of '平'; 10-20 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 20-30 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 30-40 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 40-50 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 50-60 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平']					
D	無 独 見 平 連 協	[Timeline for 3-year-old D: 0-10 min: 10 blocks of '平'; 10-20 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 20-30 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 30-40 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 40-50 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平'; 50-60 min: 1 block of '独', 10 blocks of '平']					

無：何もしない行動 独：一人遊び 見：傍観的遊び  
 平：平行遊び 連：連合遊び 協：協同遊び

表3 遊びの型の占める割合



何もしない行動 一人遊び 傍観的遊び 平行遊び 連合遊び 協同遊び

ないと発達しないとも報告されているので、これは連続遊びと協同遊びの分類の違いによる差かもしれない。

3歳児のABCDともに一人遊び、傍観的行動、平行遊び、連合遊びをし、5歳児ABCDともばらつきはあるものの連合遊び・協同遊びが58.6%を占めていることがわかった。

次に、遊びの型の占める割合(表3)は一人遊びは5歳児で3%、3歳児で10.4%、傍観的行動はともに3.8%であった。5歳児では平行遊びに比べ、連合遊び、協同遊びが多く、3歳児では平行遊び、連合遊び、協同遊びが同じ割合であった。高年齢になるほど一人遊びや平行遊びが減り、集団的遊びが多くなることがわかり、5歳児ではジャンケン遊びなど勝ち負けを理解し、順番を待つなど知的発達が裏付けられる。

### ③遊びの種類と持続時間<sup>4</sup>について

3歳児の遊びの種類は18種類、5歳児は11種類であった。主なものとして、3歳児では、虫探し24%、はしご登りと滑り台11%、ままごと7%、などであった。また、5歳児

の遊びは平均台でのジャンケン遊び61%、動物、虫を見に行く9%、登り棒6%などがあった。

遊びの持続時間は、3歳児で最高11分、5歳児では38分も続いた。最低時間はそれぞれ1分ほどであった。このことから、遊びは低年齢ほど断片的遊びで占められ、高年齢になるにつれ、集団的遊びが増え、持続時間も長くなると考えられる。これは知的に伴って遊びに対する興味、関心、集中力を増したことから、集団的遊びを通して相互関係が生まれ、仲間への思いやり、競争心、楽しみをわかち合い成就感をあげあうことで更に社会性の発達を助長し、よりよく適応した人間に成長していく上に多くの価値がある。このことから遊びは健全な性格形成のために不可欠のものである。

### 5. まとめ

以上により、3歳児、5歳児ともに心身の成長発達段階に応じて遊びにもその発達を示す特徴が認められた。つまり、3歳児は累積から連続遊びへ、5歳児では文節型や統一型

遊びへ発達していた。また、遊びの型についても5歳児では連合遊び、協同遊び、3歳児では平行遊び、連合遊びが主を占めている。更に年齢とともに一つの遊びに要する持続時間も長くなり、同時に遊びの種類は減少傾向が認められた。このような結果からも遊びが子供の発達そのものであることがわかった。すなわち、遊びは運動機能、知的機能の発達、社会性を伸ばすものであり、子供にとって遊びは成長発達を促すために不可欠のものであることを改めて確認した。今後は更に、遊びの場所や遊具などの工夫をするとともに、子供に十分な遊びの時間を確保し、いかなる環境、状況になっても子供に種々の遊びが保障されるよう遊びの研究を進めていきたい。今回は例数も少なく性差や遊びの場、遊びを援

助する指導者のあり方などについて分析するにはいたらなかった。

最後に、この研究は当看護学科3年次生、濱本百合子、石山由紀子、石橋美和子、末永靖美らと共同して行ったものである。

## 文 献

1. 岡田正章：保育原理 東京書籍，1986，pp 48-55.
2. 三宅和夫：波多野依田児童心理学ハンドブック，金子書房，東京，1983，pp 224-228.
3. 前掲書 2，229-245.
4. 高野清純：図説児童心理学辞典，学苑社，東京，1975，pp 284-298.

(1988年12月28日)